

【軽井沢町アライグマ等対策事業について 2023 年度 報告会】

1. 事業の目的

軽井沢町に生息する外来哺乳類であるアライグマ（特定外来生物）、ハクビシン、アメリカミンク（特定外来生物）の人間生活、生態系等への被害防除や啓発等の対策を行う。アライグマに関しては、根絶を目指す。

2. 事業の取組内容

- ・アライグマ、ミンクの生息情報の収集（ハクビシンは目撃の収集はなし）
- ・アライグマ、ハクビシン、ミンクの捕獲
- ・捕獲個体の殺処分、解剖、個体情報（体重等の計測、性別、妊娠の有無、個体の成熟状態等）の把握、消化管から人獣共通感染症（寄生虫）検査※、頭骨標本を作成後に歯から年齢査定
- ・3種に関して被害やアライグマの目撃があった場合の住民対応
加害動物の見極めのために痕跡調査（天井裏等に入り痕跡を探す、カメラの設置等）
- ・目撃情報の聞き取りおよび痕跡調査

3. アライグマ、ハクビシン、ミンクについて

1) アライグマ（アライグマ科） 北アメリカ原産

体の特徴：顔の中央（眉間から鼻）が黒い、尻尾に横縞がある、体は全体的に灰色（茶色の個体もあり）、長い5本指、体重 4～10kg で体長 50～60cm 程

生態的特徴：雑食性で木登りが得意（指を使う）、なわばり性はない、一夫多妻的な繁殖システム、1度失敗しても2度目の妊娠が可能、冬に活動は低下

※タヌキ（在来種）と混同されやすい



2) ハクビシン（ジャコウネコ科） インドネシア・中国南部・東南アジア原産

体の特徴：顔の中央が白い・手足は短く尻尾は長い、体は黄茶色で手足や尻尾の先端は黒色、指は5本指で丸い足跡がつく、体重 2～4kg、体長 50cm 程

生態的特徴：雑食性、木登りが得意（電線や雨樋も利用）、出産時期は明確でなく情報が不足（データが蓄積されていない）、1度に2～4頭を出産、冬に活動は低下

※アナグマ（在来種）と混同されやすい

3) ミンク（イタチ科） 北アメリカ原産

体の特徴：全体に黒色の細長い体型、手足は短い、体重 0.5～2kg 弱、体長 20-30cm 程

生態的特徴：河川や池など水のある場所が生息環境、泳ぎが上手で、魚や鳥などを捕食する肉食性、初春に繁殖、1 年中活動する

※ニホンイタチ（在来種）と混同されやすい



アメリカミンク

4. 事業結果について

1) 2 種に関して被害や目撃（アライグマのみ）があった場合の住民対応

- ・年間 30～40 件程、調査や情報収集を含めると 80～100 回前後出動することもある。
- ・アライグマ、ハクビシンの対応は、2～5 割程度。家屋侵入、農作物被害をおこす動物は他にもあり、また目撃情報は他動物であることが多いことから、半分以上は他の中型獣やムササビ、ネズミ等である。アナグマをハクビシンと間違えての連絡も多い。

2) 人獣共通感染症（寄生虫）検査

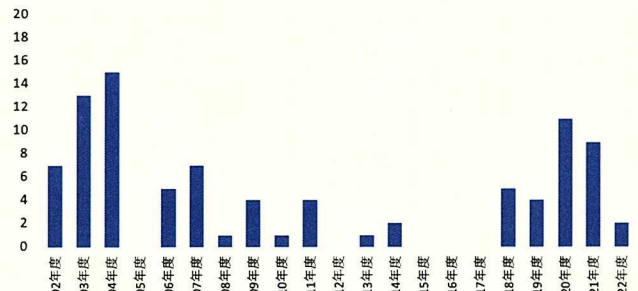
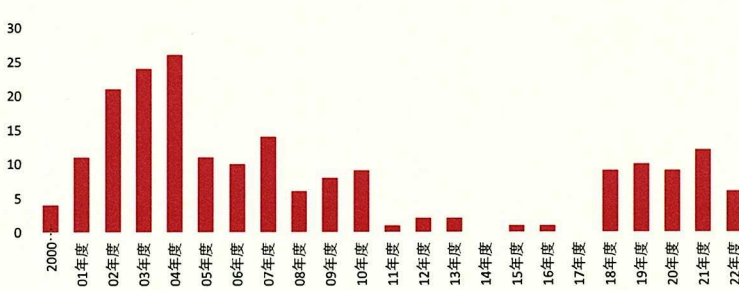
- ・野生動物と人の間には、共通に感染する人獣共通感染症が存在。特に外来生物の場合、日本に無かった感染症を持ち込むケースがある。家屋内に住み着ついたアライグマ・ハクビシンは天井裏に糞尿をするため、直接的な接触なしに感染する可能性が否定できない。糞便や消化管から線虫卵や回虫卵等の寄生虫が検出されることもあるが、アライグマ回虫症など重篤な寄生虫は今のところ発見なし。日本産の回虫でも幼虫移行症は知られているので、注意は必要。予備知識なく天井裏に入ったり、罌をかける人がいたり、リスク管理できていない現状。

3) アライグマ（町事業 2004 年～）

- ・2001 年から目撃があり、2002 年から独自の対策を開始。2004 年度まで情報および捕獲数は増加した。
- ・2005 年度以降、捕獲数（捕獲効率）、情報件数は減少していたが、2018 年から再度増加。
- ・2005 年度以降、年齢構成は高齢個体の割合が増え、成獣だが妊娠していないメスが出現してきたが、2018 年度以降、若い個体が捕獲され、捕獲数が増えてきた。
- ・2022 年度までに 92 頭が捕獲される（猟友会含む）。

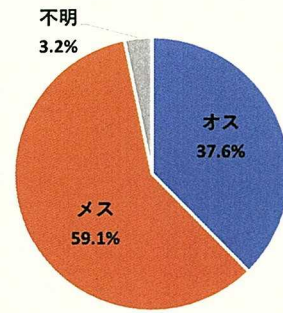
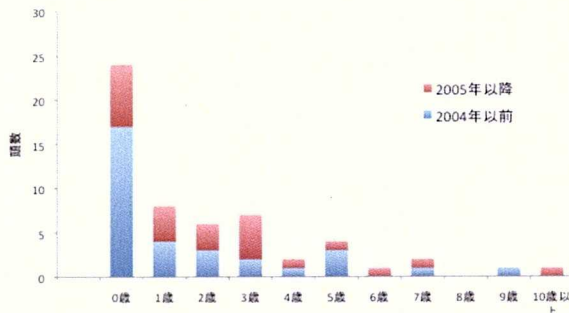
↑

一旦、個体数が減少し、密度も低下したが、生き残った個体や分散してきた個体から個体数が増えつつある可能性あり。近年は南部と西部の情報が増加。



アライグマの情報件数の変化

アライグマの捕獲頭数の変化



アライグマの年齢構成

捕獲されたアライグマの性比 (n=93)

表. アライグマの年齢別の妊娠率と胎仔数

年齢	n	妊娠有	妊娠率	胎仔数		
				平均±S.D.	最小	最大
当歳	8	0	0.0%			
1歳	7	7	100.0%	3.6±1.4	2	6
2歳以上	15	13	86.7%	3.5±0.8	3	5
				3.6±1.1 (n=20)	2	6

表. アライグマの年齢構成の他地域との比較

	軽井沢	北海道 (Asano,2003)		神奈川県 (加藤・羽山, 2006)	
		恵庭市	馬追・野幌	メス	オス
当歳	42.9(30.4)%	41%	34%	37.3%	51.7%
1歳	14.3(17.4)%	27%	34%	27.5%	22.4%
2歳以上	42.8%(52.2%)	32%	32%	33.3%	20.7%

()は罠で捕獲された場合の年齢構成、北海道と神奈川は罠での捕獲の場合の年齢構成

- ・アライグマの対策は早期対策が行われたため、急激な増加が起こる前に食い止めることができた (外来種対策を成功させるための最も重要なポイント)。対策を弱めると再度の増加が起こり、今までのコストが無駄となる。



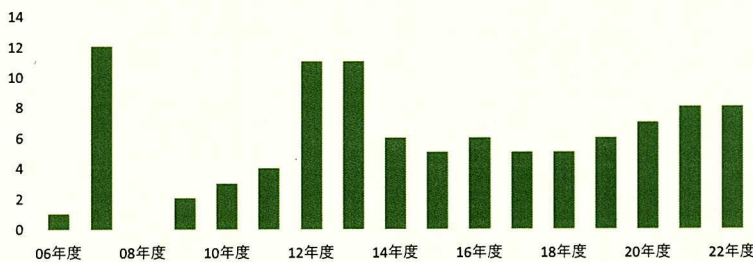
密度が下がると情報も減るため、根絶を目指すには情報収集が課題

4) ハクビシン (町事業 2011 年度～)

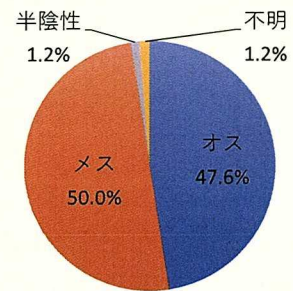
- ・ 2011 年度から 82 頭を捕獲し、オス 39 頭、メス 41 頭、半陰性 (両性具有) 1 頭、不明 1 頭で、ほぼ性比は 1 : 1。
- ・ 年齢構成は 0 歳が最も多く 37.8% で、0 歳と 1 歳で 59.2% を占めた。2 歳以上は急激に少なくなる (2022 年のデータまで、幼獣および交通事故を含む)。
- ・ データ数は少ないが、軽井沢での産仔数 (または妊娠) は 1~4 頭で、平均 2,3 頭程度。春から初夏にかけて妊娠、出産するが、個体データの蓄積により、11 月に妊娠および授乳中の個体もいることが判明。年に 2 回繁殖のピークありそう (同一個体が年 2 回出産するのではない)。

繁殖サイクルなど生活史が不明瞭 ← 効果的な捕獲のためには情報不足

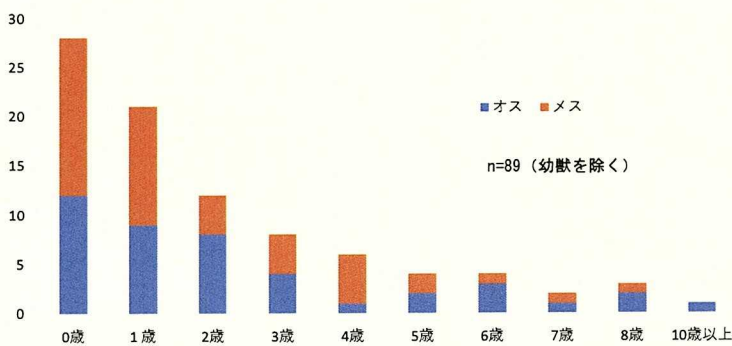
- ・ 冬場の捕獲やセンサーカメラの撮影がほとんどないことから、冬場は活動が低下する。



ハクビシンの捕獲頭数の変化 (当法人による捕獲)



捕獲されたハクビシンの性比 ((2011-2022) n=82)



軽井沢町で捕獲・拾得されたハクビシンの年齢分布

表. 平成24年~28年度の寄生虫検査の内訳および寄生虫の検出数(陽性数)

	糞			消化管		計
	テン糞	ハクビシン	アライグマ	アライグマ	ハクビシン	
2012	4	3			14	21
2013		3		1	7	11
2014	2	3		2	6	13
2015	5	3	1		5	14
2016	2	4			6	12
合計数	13	16	1	3	38	71
寄生虫の陽性数	3	1	1	1	2	8
検出率 (%)	23.1	6.3	100.0	33.3	5.3	11.3
	16.7			8.6		

- ・ 定着してかなり時間が経過していて、町内外に多く生息するため、根絶は不可能捕獲圧だけを掛けても、減らすことは困難



ハクビシンを増やさない対策が必要

1. 侵入の防止・ ・ 電気柵などの設置、家屋の侵入口を作らない
2. 寄せ付けない・ ・ 廃棄作物を放置しない、ねぐらとなる別荘、廃屋、寺社等の管理

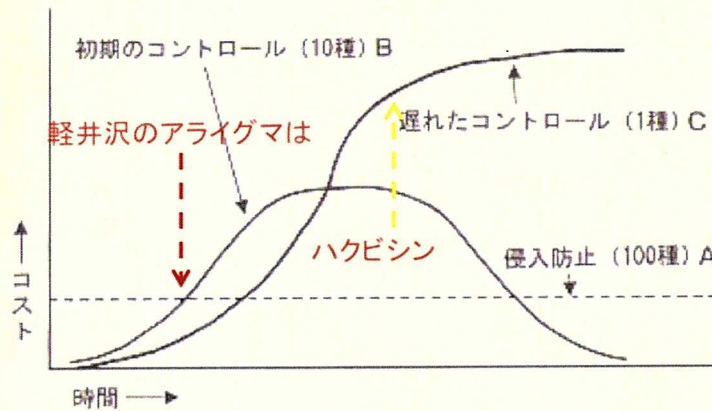


図2・7 移入種のコントロール時期によるコストの変化
横軸は経過時間、縦軸はコストを示す (Naylor, 2000より改変)

増やすことにつながる行為

- ・ アライグマ、ハクビシンの侵入を許すような家屋の放置
- ・ 餌となるゴミの放置や餌となる農作物の管理がなされていない
- ・ 様々な外来種の持ち込み

5) アメリカミンク

- ・ 軽井沢町内においては、2014年頃から目撃情報などがあるが、情報はまだ少ない。
- 長野県全域においては、千曲川沿いに川上村から長野市まで分布を拡大中